

特集 公開天文台 100 周年 (1)

日本公開天文台協会による公開天文台 100 周年記念事業

宮本敦・澤田幸輝・米澤樹 482

公開天文台白書から見た公開天文台の現状

米澤樹・澤田幸輝 490

EUREKA

地球磁気圏に付随した X 線放射のモデル化
— 磁気圏グローバル撮像に向けて —

伊師大貴 502

天球儀

星のソムリエ資格認定制度カリキュラムの構造

柴田晋平, 星のソムリエ制度運営グループ 511

〈2025 年度日本天文学会 天文功労賞 (長期)〉

彗星の光度観測コーディネーター業を振り返って 中村彰正 519

シリーズ: 海外の研究室から

坊氏と私のアメリカ研究生活
Carnegie Observatories

百瀬莉恵子 525

書評

シリーズ現代の天文学 [第 2 版] 恒星

守屋堯 530

月報だより・寄贈図書リスト

531

【表紙画像説明】

2026 年は日本初の公開天文台である倉敷天文台の設立から 100 周年にあたる。日本公開天文台協会では「公開天文台 100 周年」として、各種企画を実施している。写真は、倉敷天文台開台時の関係者の写真 (倉敷天文台提供)。前列左から水野千里主事、山本一清台長、原澄治名誉台長。当時の天文台は官立の研究機関が中心だったが、倉敷天文台は「公開」を目的に設立された初の天文台である。

【今月の表紙デザイン】

今月は「夏の大三角」をモチーフに描きました。ベガ (織姫星) と、アルタイル (彦星)、はくちょう座のデネブが浜辺でスイカ割りをしている様子です。地球上の浜辺にある砂粒の数は、人が観測可能な星の数の多さと同じくらいだと言われています。浜に行く機会があれば、それを思い出して小さな悩みは忘れてしましましょう。